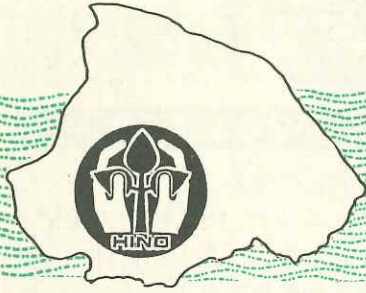


(1)

会報



緑のまち

第23号 平成11年3月26日

発行 財団法人 日野市環境緑化協会

〒191-0016 東京都日野市神明2-13-1
電話 042(585)4740



大正の初めに、平山宗印寺の藤浪住職が発案、豊田の安田善衛氏による、およそ3,000本の吉野桜の寄贈により、平山の青年団自らが、南平から八王子の長沼までの浅川右岸の土手に桜の苗木を植えた。車などが土手を余り通らなかつた時代、夜桜の宴席も壮観だったものと思われる。

桜の木も、戦時中にまきの供出に当てられたり、堤防の決壊を防ぐ、木流しに次々に切られたという。現在、平山橋付近には、35,6本の桜を残すだけになった。

古木になった今も、柔らかで、凜とした花を陽の中に咲かせている。

平成11年度 事業計画・収支予算

1. 緑化推進に関する普及啓発事業

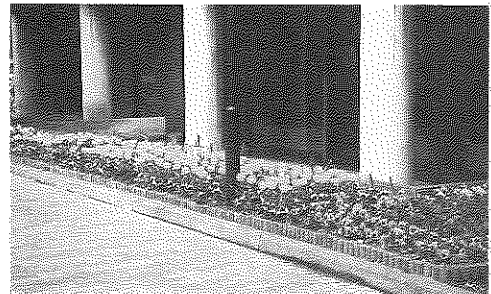
- 春・秋の緑化月間行事の実施
(家庭緑化の日公園及び地域清掃の日ほか)
- 緑の募金運動の実施
- 緑化講習会の開催
- 会報「緑のまち」の発行



花のテーブルアレンジ講習会

2. 緑化推進に関する事業活動

- 花の里親・里子運動
- 園児・老人クラブによる球根の植付け
- 公園・公共施設への花卉植付け
- 菊花栽培及び菊苗配布



庁舎前の花壇

3. 緑化推進に関する調査・研究

- 市内のコンクリート壁面の緑化について



宿根草の研究花壇

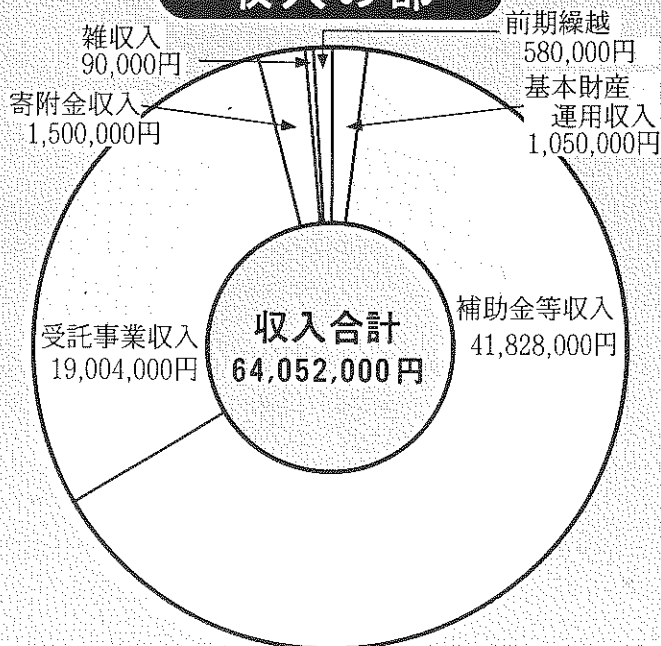
4. 受託事業

- 公園清掃及び管理業務
- 緑道維持管理業務

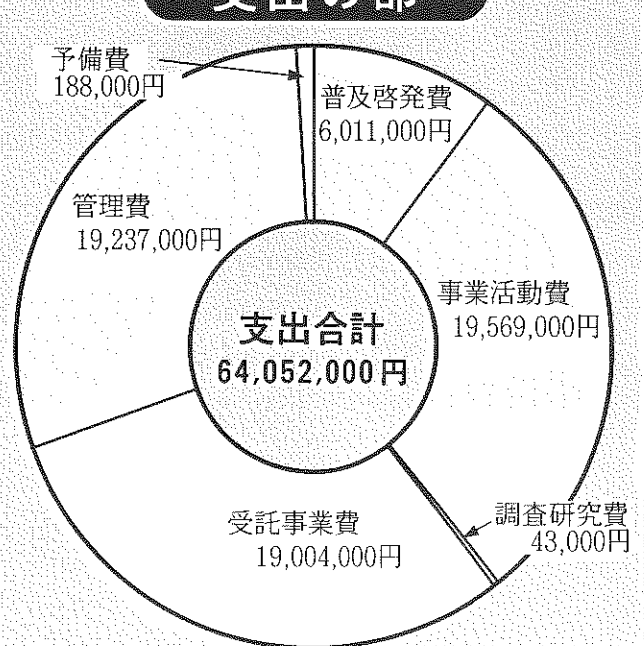


「公園及び地域清掃の日」の市民活動

収入の部



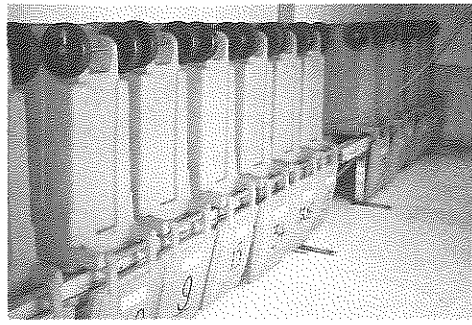
支出の部



土の中の緑

スプーン一杯の土の中には、50億のバクテリアと2,000万の放線菌、100万の原生動物、20万の藻類、菌類がいるといわれ、全昆虫の95%は、その生涯の一時期を土の中で生活する。これらの命には落葉や枯れ枝などの有機物が必要である。

青梅市小作駅の北側に東京都畜産試験場がある。約26万㎡の広大な敷地には、牛や豚、ニワトリなどの家畜が飼われている。この一角に、東京都有機農業堆肥センターの事務所がある。ここで、昨年からは「生ゴミ」の堆肥化の実験が続けられている。



洗って干してあるカート

バイオメイト

都庁にある、12カ所の職員食堂から、毎日、トラックで車つき生ゴミ箱のカートが運び込まれる。まずは、カートの中に混じる、ビニール、栓アルミ、紙、吸い殻が除かれる。カートの番号で、店を特定することができる。

「バイオメイト」と呼ばれる生ゴミ処理機の中には、仕切りがあり、1日当たりの処理能力500kg、500kgの2基となっている。

カートを処理機のリフトに載せると、リフトが上昇して生ゴミを上から中に捨てる。朝入れられた生ゴミは、昼には跡形もなくなっている。

電気ヒーターを常時80度に温め、48時間回転を加えると、水分が飛んで、生ゴミは1/8の体積になる。週に1回、処理したものを外に出している。

出て来たものを積み上げて置いて、発酵は始まらない。80度の高温で菌はすでに死滅している。毎日、600kgの受け入れ量では、温度を下げる訳にも行かない。

「発酵は水分が予想以上に必要」「空気調整がむずかしい」「分かってはいるつもりでも、微生物発酵は難しい」

バイオメイトから出て来た生ゴミは、PH5.8の強酸性を示す。これに、牛・豚・ニワトリのフンをたし、水を加えて、パケットローラーでよく混ぜ合わせる。次に、モーターで毎日空気を送り続けて、半月間積んで置く。

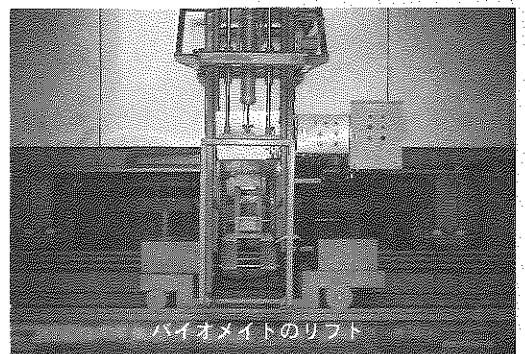
発酵が始まると堆肥から湯気が出て来る。半月経ったところで、再び水を加えてよくかき混ぜ、隣の場所に積み替える。この作業を6回繰り返すと発酵は完成する。

現在、手動でやっている、水やり、攪拌作業を全自動の「縦型密閉式発酵槽」に切り換える計画をしている。

発酵

有機物肥料そのままでは、いくら畑に施しても、野菜には吸収されない。チッソ・リンサン・カリなどの無機質に変化して、初めて、野菜に吸収される。この変化が発酵である。

最初に、有機物の分解を始めるのは酸素を多量に必要とする、糸のような菌糸をたくさん伸ばす糸状菌(カビ)で



バイオメイトのリフト

基礎的な試験

都庁から出た生ゴミを堆肥化し、それを使って、農家が有機野菜を生産し、都庁に納めるという計画がある。

そのため、東京都立川試験場では、農家が安心して使える生ゴミ堆肥の基礎的なデータ試験を現在、行っている。生ゴミ堆肥は、有機質の持つ長所をたくさん持っている。土をフカフカにして根ばりをよくし、乾燥・干害に強い野菜をつくる。肥料切れのない、肥料をたっぷり蓄えた土をつくる。野菜に必要な水や酸素を常に供給する土をつくる。

ただ、生ゴミ堆肥には短所もある。生ゴミの持つ塩分の影響である。塩気により、土が単粒化してパウダー状になり、土を堅くしてしまう。堅い土は、有機質の持つ長所とは、まるで、逆の結果をもたらす。一度生ゴミに入ってしまったものは取り出せない。家畜フンの量を増やすことで、塩分割合を減らす研究がなされている。

一般農家が生ゴミ堆肥の栽培指針、マニュアルを手にするのは、もうしばらく時間がかかりそうである。

ご参加ください。

～5月23日

くらしに花とうるおいを!

主催 日野市
(財)日野市環境緑化協会

花と緑の健康相談

午前10時～午後3時 日野中央公園

- 草花、菊、花木、植木などの相談を専門家がお応えします。

即売会

午前10時～午後3時 日野中央公園

- 苗木、鉢花の販売、肥料、腐葉土など園芸資材の販売、「新・日野の植物ガイドブック」など図書の販売を行います。

山野草・盆栽展

4月12日(月)～4月14日(水) 市役所101会議室
午前9時～午後4時(14日は午後3時まで)

- 四季の風情を感じさせてくれる山野草。自然の景観を凝縮した盆栽。一つ一つの作品をじっくりご覧ください。

公園及び地域清掃の日

4月18日(日) 午前9時～正午

- 『美しいまち日野』をめざして、公園、広場、グリーンベルト、自宅周辺の市内一斉清掃を行います。この一斉清掃は、春・秋の年2回、自治会、老人クラブ、子ども会の皆さんのご協力で実現しています。
- 4月18日(日)に実施出来ない団体は、前後の日程で実施してください。

自然観察会

5月23日(日) 午前9時15分～午前11時30分(雨天決行)

- 今回は黒川清流公園～神明野鳥公園までのおなじみのコースを歩きます。野草、樹木、昔話など、講師の解説を聞きながら、のんびり散策します。
- 集合＝豊田駅北口の豊田駅連絡所前 午前9時15分
- 申込み＝電話で、(財)日野市環境緑化協会(☎585-4740)へ

緑化講習会

広報「ひの」の募集をご覧のうえ緑化協会にお申し込みください。

- (財)日野市環境緑化協会では、年間を通して、「入門・コンテナガーデン」、「実践・無農薬でつくる野菜づくり」、「庭木の手入れ」、「樹木医の処方箋」、「昆虫教室」、「自然観察会」、「炭焼き教室」など、様々な緑化講習会を開催しております。

春の緑化月間行事に

期間＝平成11年4月12日

テーマ：まちに緑と清流を！

家庭緑化の日 4月29日(祝) 午前10時～午後3時 日野中央公園ほか

- (財)日野市環境緑化協会では、4月29日を日野市の「家庭緑化の日」として、ご家庭の緑を増やしていただくよう、99年の花『プロフェュージョン』の花苗の無料配布を行います。
日野中央公園では、緑のリサイクル、花と緑の健康相談、草花、花木販売なども同時開催します。

花苗の無料配布 午前10時～ (日野中央公園の午後の配布はありません)

- 花のコンクール金賞受賞の『プロフェュージョン』の花苗を、1世帯につき2ポット、先着順に配布します。

日野中央公園	午前10時から 1,400人
東京南農協 七生支店	午前10時から 500人
旭が丘中央公園	午前10時から 200人
市民の森 スポーツ公園	午前10時から 200人
平山地区センター	午前10時から 300人
日野第八小学校	午前10時から 200人
万願寺八号公園	午前10時から 200人



プロフェュージョンは「花のコンクール(AAS)」で99年の花として金賞を受賞しました。百日草の美しさと、ホソバヒヤクニチソウの強さを合わせ持つ、色鮮やかなオレンジ色とチェリー色の花です。
花期間も長く、耐病性にも優れています。

緑の募金 午前10時～ 各会場

- 4月、5月は「緑の募金」の重点期間です。当日、各会場で「緑の募金」を行いますのでご協力をお願いいたします。

花の里親・里子 午前10時～ 各会場

- 「日野市の花いっぱい運動」を展開している(財)日野市環境緑化協会の「種箱」へ、花、野菜の種の提供をお願いいたします。当日、各会場で種を集めています。

緑のリサイクル 午後1時～午後3時 日野中央公園

- ご家庭で不要になった球根や苗をリサイクル配布します。
- 配布用の苗や球根の提供をお願いいたします。(財)日野市環境緑化協会 ☎585-4740
受付期間＝4月9日(金)まで 受取期間＝4月12日(月)～4月16日(金)

第七公園の緑

日野市立日野第六小学校

高田 有加里

私の家の前には公園があります。そこにはたくさんのお花が咲いて、とてもいい気持ちになります。小さいころから毎日のように遊んでいました。この公園にはいろいろな思い出があります。たとえば、友達と大きな木のふもとに二人の宝物を埋めたり、木登りをしたり。

この公園の自然と、私は育ってきたような気がします。第七公園の自然が今も元気であるのは、月に何回か来てくれるおじさん達が余分な枝を切り落としてくれたり、枯葉のそうじをしてくれているおかげだと思います。これからもがんばって第七公園の自然を守り続けてほしいです。

この公園は季節によっていろいろな姿になります。春は桜が満開に咲き乱れ、わざわざ遠くに行かなくてもお花見が出来ます。公園の横を通っ

たり公園の中を通ると頭が桜だらけになってしまふ事もよくあります。地面には桜が沢山つもるのでひろって桜合戦をしたり桜ふぶきを降らせたりします。

夏は葉っぱが青々としげっでいて、見ているだけでなんだか心もスッキリして夏の暑さもわすれてしまふような気分になります。

秋は枯葉がはらりと舞い落ち、少しどこかさびしい気分になります。

冬は雪が積もり、木々は枯れ、草花は雪に埋もれてしまふ下で春に向けて準備をし、春になり雪があとかたもなくなくなるころには美しい花々が咲き乱れ、桜の木には満開になった桜が地面一面に桜の雪を積もらせる事でしょう。

このようにこの公園の自然があったから今の私がいるんだと思います。私が大人になってもこのままの姿であって

ほしいと思います。これから私たちの手で公園の緑を守って行きたいと思っています。

家の花だん

日野市立平山台小学校

斉藤 啓介

八月初めの、とても暑い土曜日でした。ぼくとお父さん

は朝からやる気まんまんです。なぜかと言うと、今日は家の花だんを花でいっぱいにする計画を実行する日だからです。

春にさいていた花が終わり花だんがさびしくなった事と、七月の終わりに北海道に旅行をして、山の斜面に紫色のジュータンをしきつめた様なラベンダー畑に、感動した事がきっかけです。そのため近くの花屋さんで、マリーゴールド、サルビア、などをたくさん

ん買って来て、玄関の所と南側と西側の花だんに花の高さや、色どりを考えながら植えました。

植え始めてから二時間後に終わり、すぐにホースで水をあげました。父さんもぼくも腰が痛くなりましたが、花だんいっぱい色とりどりの花が並び、とてもきれいになりました。となりのおばさんが通りを歩いていきながら、「いつも庭がきれいだね。」と言ってくれました。

少し疲れたけれどぼくはとてもうれしくて、疲れを忘れるほど気分が良くなりました。花を見てきれいだと感じる気持ちにはみんな同じなんだなあと思いました。

これからもたくさんのお花を植えて、通りを歩く人や家の人がよるこんでくれたらいいなあと思います。秋の花だん作りもがんばりたいと思います。

林が教えてくれた事

日野市立開徳小学校

菅野 梢子

私の家の前には、大きな林があります。私は、ペランダに出てその林をみるのが、大好きです。ちよつとつかれている日や、なやみごとがある日は、林を見ます。そうすると、心がほっとします。林を見ると春夏秋冬がよくわかります。今のような、夏は、深い緑がギンギンに光っています。運動会の練習が始まるころになると、黄色や赤、茶色などに染まって、カラフルになります。いろんな所でクリスマス話が出るようになると、葉が、次々に落ちて行きます。そして、おだやかな春がきます。木の枝のさきの方に、新芽がのぞきます。でも春は、もう一つあります。木の根の方が、小さな花でいっぱいになるのです。こうして一年が過ぎると、少し大きな林になります。「木は生きています」

私達から

の提案

市内の小学校6年生を対象に、作文募集「緑のまち」を実施したところ、555編の応募がありました。

「子どもたちを感動させた緑」の作文の中から、優秀賞10編、優良賞65編を審査委員の先生に選んでもらいました。今回は前会報につづき、残りの優秀賞5編を掲載します。

と口では、言う人が多いけど、今の私のように、実感している人は、少ないと思います。こういう林を、中学生や高校生になっても、忘れないでいたいと思います。

前々から、知っていた事だけれどもうすぐ、モノレールが開通します。そうしたら、この林の一部が見えなくなり、ます。このごろ、実感したことがありません。知ってて、知らないふりをしていた自分がわかりました。私が、いつも見てきた林が、いっなくなってもおかしくないということ。きつと、ビルやモノレールがいろんな所でつくられていく時、私のように、複雑な心境の人が、いたはず。人の生活が豊かになったのと、ひきかえに、すごく、大きな、すごく大切な物が失われたのかなと思います。

自然とバッタ君

日野市立滝合小学校

田中 佑樹

昔、ぼくは草がたくさんある所で、バッタをつかまえた。トノサマバッタ、シヨウリョ

ウバッタ、クルマバッタの三種類だった。家に帰って、ジッと見ていると初めの方は、ひっしに出ようとジャンプしていたが、だんだん力がなくなってきたのかみんな静かになった。「ちえっ。」と言ってぼくは、外へ行った。そして、次の日またバッタをつかまえようと思ったがその日は、バッタをつかまえられなかった。ふと虫カゴを見ると中でひっしにバッタがもがいていた。「へっそんなことしたってにがさないよ。」とバッタに言って、家に帰った。

しかし、次の日シヨウリョウバッタが死んでいた。ほかのバッタも元気がなかった。友達にも「にがしたほうがいい。」といわれしぶしぶかえした。すると元気がなかった

バッタが生きかえったように元気がなくなった。ぼくは、びっくりした。そして、はねて遠くへ行ってしまった。ぼくは、あらためて自然はすごいと思った。そういえば草木がなければ生物も人間も生きていけない。今、自然はどんどんなくなっている。だから自然は大切にしよう。



家で作った じゃがいも

日野市立程久保小学校

土方 勇人

僕の住んでいる所は凄く自然に囲まれている住宅地です。僕は、その自然の中でじゃがいもを育てたことに就いて話します。

僕の家では、よく、じゃがいもを植えます。

でも毎年、収かくが少なく、取れたとしても、小さいものや実がなっていない年もあります。

だから、今年は、じゃがいものくきに灰を着け害虫の予防をして、去年より、早く植えました。それから、水をときどきあげ、肥料もたまにやっています。

そしたら、何日かすると、もの凄く、いい、勢いで葉やいろいろな部分がすぐに成長していききました。

「よし、このままいけば、すごく大きいイモがとれるぞ」と言う期待でいっぱいになってきました。

花が咲きました。花は白く中心が黄の綺麗な花です。少しづつ葉や花が、かれました。

僕はお父さんに「もうちょっとでとれるよ。」といわれました。

「早く収かくの日にならないかな」と待ち遠しくなりました。

葉や花が、かれました。

さあ、いよいよ、まことにまった収穫の日です。僕はダンボール箱を持ってきて、ひと

つためしにぬいてみることにしました。

いもになってるかな、なっていないかな、でも、やってみなきゃわからないと思い「ふう」と力を入れてぬきました。そしたら、なんと、なんと、あまりいもは付いていませんでした。

でも、土の中に金色のものがみえました。

「もしかしていもだ」と土の中をほりました。

すると僕のごぶし位いももがとれました。

「やったー」と言うほどうれしかったです。それでいもの収穫が終わりました。

じゃがいもはダンボール箱いっぱいになりました。

やっぱり植えるのを早めたからこんなに取れたと思います。それと、僕はじゃがいもを育てて、思ったことがあります。

自然は人を楽しませてくれたり、感動させてくれたりします。

しかし、最近では、自然や緑が少なくなっています。だから、こういうことでも僕はだいじだと思えます。

コスモス写生会

観光協会と本協会、日野市の共催で行った「市政35周年記念コスモスアベニュー」で、市民のみなさんがまいたコス

モスの種が大きく育ち花が咲きました。
平成10年9月26日には小学生を対象にしたコスモス写

生会が開かれました。今回はその作品をご紹介します。(敬称略)

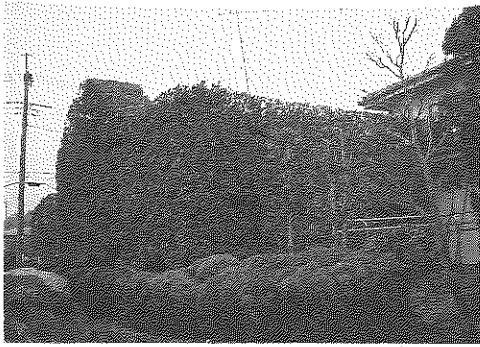


▷坂川ききょう (幼稚園年長)

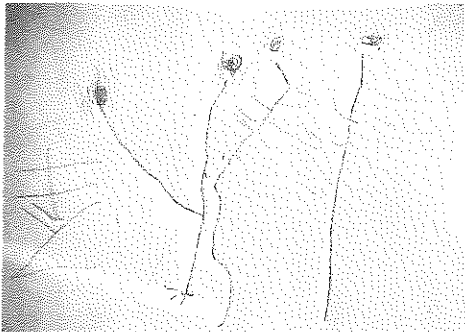


▷坂川鮎美 (小学校2年)

街角だより



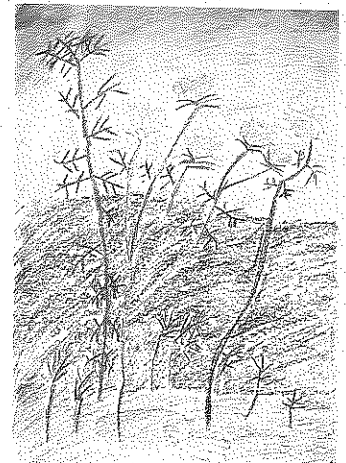
川辺堀之内の岸野源治さんの土蔵周りは、南と西側を覆うように、樫の木が茂っている。厚みが1m程、高い所では7、8m程の高さがある。頂上付近は、屋根の形に合わせ三角形になっている。「風が怖い」とよく話をしていた、岸野さんのおじいさんが、昭和10年頃、自分で樫の木を4本植えて、手入れをして、現在の形に整えてきた。人家も少なく、窓のサッシもなかった時代、吸い込まれるような台風が強風に誰もが恐れた。



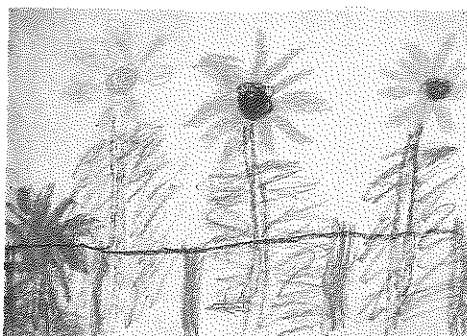
△中村俊貴 (幼稚園年長)



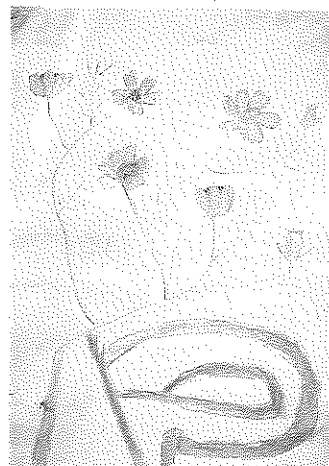
△坂川 翔 (3歳)



△中村美花 (小学校3年)



△齐藤麻香 (保育園年長)



△齐藤香奈 (小学校3年)



△太田 南 (小学校4年)

新評議員紹介

(幼)日野市青年会議所理事長の金田達雄氏が、2月15日、当協会の評議員に選任されました。

編集のあとに

「協会は森の中でいいですね」と鉢店のおばさん。たしかに緑化協会の建物の周りには樹木が多い。